

科目名	経済学入門	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 ■必修 □選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Introduction to Economics	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	くすやま ひろあき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	楠山大暁	修得単位	2単位
授業のテーマ	経済学的な分析手法を使いこなせるようになる。		
到達目標	市場経済の成り立ち、豊かさの尺度としてのGDPを理解することを目標とします。		
授業概要	私たちは世界でも有数の豊かな国に暮らしています。その一方で、貧困にあえぐ国も数多く存在することも事実です。なぜ、豊かな国とそうでない国が存在するのでしょうか？ 本講義ではこのような問題意識のもと、そもそも豊かさとは何か、そして豊かさを維持していくためには何が必要なのか、経済学的な根拠に基づき考えていきます。		
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	人類史1万3,000年の謎		
第3回	豊かさの尺度としてのGDP		
第4回	GDPではかる経済成長率		
第5回	なぜ、世界には豊かな国と貧しい国が存在するのか？		
第6回	市場経済を成立させるもの		
第7回	共同体		
第8回	中間テスト		
第9回	家計と企業		
第10回	需要と供給		
第11回	交換の余剰		
第12回	厚生経済学の第1基本定理		
第13回	夜警国家と福祉国家		
第14回	混合経済		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	1. 授業前にプリントに目を通してください。理解できる箇所、できない箇所を明確にしてください。(2時間程度) 2. 授業後に、プリントの復習をしっかりと、すべて理解できるようにしてください。(2時間程度)		
履修条件 受講のルール	予備知識が無くても理解できるよう、授業を進めます。教科書を購入してください。		
テキスト	パーサ・ダスグプタ(2008)『経済学』岩波書店		
参考文献・資料	Dasgupta, P. (2007) <i>Economics A Very Short Introduction</i> , Oxford University Press. 英語に興味のある人は是非原書にも挑戦してください。 ジャレド・ダイヤモンド(2012)『銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎』草思社		
成績評価の方法	【平常点(10%)、中間テスト(25%)、レポート(25%)、定期試験(40%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・レポート課題は授業内で提示します。 ・授業の理解及び予復習が充分であるかを確認するため、第8回授業時に中間テストを実施します。
オフィスアワー	<p>毎週月曜日・金曜日 10:40~12:10</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>経済をとおして人間社会の営みに迫りましょう。</p>

授業科目名： 自然科学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村中孝司 担当形態： 単独
-------------------	----------------------	-------------	---------------------------

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）
----	-----------------------------

施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学
-----------------------	----------------------------

授業の到達目標及びテーマ

自然界の構成要素、生物と生物の関係、生命の進化や起源など、これまで得られている科学的な知見を概観することを通して、科学の諸問題に対する理解を深める。

到達目標として、以下の2点を設定する。

1. 生物・生命の生き様を概観し、生態系の成り立ちや機能を理解することを通して、人間社会とどのように関わっているか説明できる。
2. 生物の進化のみちすじを探り、生物の適応や種間関係などから、人類が自然環境の一因であることに対する理解を深め説明できる。

授業の概要

私たちは自然についてどれだけの事実を知っているだろうか。地球上に生命が誕生しておよそ38億年、現在、地球上で見ることのできる生物の多様さはどのようにして作り出されてきたのだろうか。そして、地球最初の生命はどのようにして生み出されたのか。講義では自然界の主要な構成要素である生物の世界を中心に切り上げ、生物と生物の様々な関係、生物の誕生と進化と我々人類の歴史を理解することを目指す。

授業計画

第1回：ガイダンス 自然、生命、環境

第2回：環境と生態系 主体－環境系、環境要因、環境条件、資源

第3回：動物の行動と適応① 動物の社会、集団行動、群れ

第4回：動物の行動と適応② 繁殖と適応度、利他行動と包括適応度、社会性昆虫

第5回：植物の繁殖と適応① 花の役割、種子の繁殖戦略、栄養成長

第6回：植物の繁殖と適応② 光合成と物質生産、植物の馴化、進化的安定戦略

第7回：食物連鎖と食物網 食物連鎖、生産者と消費者、生態系ピラミッド

第8回：微生物 分解者、菌類、バクテリア、藻類、原生動物

第9回：個体群 個体群成長、個体群動態、環境収容力

第10回：種間関係① 種と種の間さまざまな関係、捕食・被食、摂食

第11回：種間関係② 競争、寄生、共生

第12回：進化の法則 遺伝の法則、自然選択、進化の道筋

第13回：動物の進化 脊椎動物と節足動物、胎生

第14回：植物の進化・さまざまな共生 花と種子の進化、送粉共生系、草食動物と腸内細菌

第15回：共進化 細胞内共生、光合成系の進化

定期試験

テキスト

星元紀ほか『初歩からの生物学』放送大学教材

参考書・参考資料等

濱田嘉昭『科学的探求の方法』放送大学教材

学生に対する評価

【定期試験(60%)、レポート(30%)、授業中の課題(10%)】

上記評価項目を基にして総合的に判断します。

科目名	現代経済入門	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 ■必修 □選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Introductory of Modern Economy	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	野口 秀行	修得単位	2単位
授業のテーマ	日本経済の特徴とその問題点を、世界経済と関連付けて学習する。		
到達目標	各受講者には日本経済の全体像と、個別専門領域に取り組むための基礎事項を修得して欲しい。		
授業概要	戦後の日本経済の変遷を学びつつ、第4次産業に向けた経済システムの大変革を学びます。		
授業計画			
第1回	日本の戦後復興と経済成長①：経済成長は目に見えるのか？		
第2回	日本の戦後復興と経済成長②：経済成長に対する物価変動の影響とは？		
第3回	日本の戦後復興と経済成長③：経済成長によって何が得られるのか？		
第4回	日本の戦後復興と経済成長④：戦後復興期、日本は何を優先したのか？		
第5回	日本の戦後復興と経済成長⑤：高度経済成長を実現させた要因は何か？デニソンの見方とは？		
第6回	日本の戦後復興と経済成長⑥：石油危機からバブル経済の崩壊まで、低成長時代には何があったのか？		
第7回	「失われた20年」と経済のグローバル化①：3つの経済体制と資本主義の台頭とは？		
第8回	「失われた20年」と経済のグローバル化②：アングロサクソン型とライン型資本主義の違いとは？		
第9回	「失われた20年」と経済のグローバル化③：日本の民間部門の特徴とは？（雇用、企業統治、金融）		
第10回	「失われた20年」と経済のグローバル化④：グローバル化による日本経済の変化とは？（生産部門）		
第11回	「失われた20年」と経済のグローバル化⑤：グローバル化による日本経済の変化とは？（企業統治部門）		
第12回	「失われた20年」と経済のグローバル化⑥：グローバル化による日本経済の変化とは？（雇用・労働面）		
第13回	「失われた20年」と経済のグローバル化⑦：グローバル化による日本経済の変化とは？（金融部門）		
第14回	我が国の経済問題①：少子高齢化と格差社会の問題。地方創生と経済学の視点。		
第15回	我が国の経済問題②：自然環境の変化と食糧問題。持続可能な社会に向けた経済学の役割。		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件 受講のルール	なし。		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）		

学生への
メッセージ

日本経済についての好奇心を喚起し、さらに詳しく学びたいような授業としたい。

授業科目名：地球環境学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村中孝司 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学		
授業の到達目標及びテーマ 人類が現在直面している地球規模の環境問題から、身近な生活環境の問題、生物多様性問題について、人間社会の視点から学び、人間社会の発展と地球環境の保全の両立をどのように考えていけばよいか理解することを目標とする。 到達目標として、以下の3点を設定する。 1. 地球環境と人間社会の関係を対峙するものとみなすか、共生すべきものみなすか考え、持続可能な社会の構築のために必要な知識と考え方が定着できている。 2. 自然環境の社会科学的価値を検討し、環境開発行為、生物多様性の損失などによる問題点の定量化ができる。 3. 日本が抱える食やエネルギーの問題を理解し、地球環境問題の視点に立って、これからの日本社会のあり方を主張できる。			
授業の概要 2011年、世界人口は70億人を突破した。一方、地球上の資源には限りがある。私たち人類はその限りある資源の中で生きていかななくてはならない。講義では、地球環境問題、生物多様性、農業問題など、人間生活や社会に密接に関わりのある環境問題について紹介する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 豊かさと環境問題 第2回：公害と環境問題の歴史 産業革命と工業化、公害、大気と水 第3回：地球温暖化 地球温暖化の原因と影響、フィードバックループ 第4回：オゾン層破壊 オゾン層の生成と消失、フロン類、人体や自然界への影響 第5回：酸性雨・酸性霧・酸性雪 酸性雨の原因と影響 第6回：水質汚濁と化学物質汚染 富栄養化、農薬・除草剤、重金属類、海洋汚染、生物濃縮 第7回：砂漠化と森林破壊 農業形態のあり方の変化による土地の劣化、過放牧、過耕作 第8回：生物多様性 生物多様性とは何か、生物多様性の階層 第9回：生物多様性を脅かす3つの要因① 開発・乱獲、分断・孤立化、管理放棄 第10回：生物多様性を脅かす3つの要因② 外来生物の侵入による影響、生態系サービス 第11回：環境の修復と環境アセスメント 自然保護制度、回避・低減・代償、アセスメントの実態 第12回：環境価値の評価 環境の経済的価値 第13回：エネルギー問題 化石燃料エネルギー、自然エネルギー 第14回：循環型社会の構築 里山の利用、3Rとゴミ問題、ライフサイクルアセスメント 第15回：世界人口と食料問題 食料自給率、フードマイレージ 定期試験 テキスト 植田和弘・大塚直『環境と社会』放送大学 参考書・参考資料等			

御代川貴久夫『環境科学の基礎（改訂版）』培風館

日本生態学会編『人間活動と生態系（シリーズ現代の生態学3）』共立出版

学生に対する評価

【定期試験（60％）、レポート（30％）、授業中の課題（10％）】

上記評価項目を基にして総合的に判断します。

科目名	簿記入門 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	くにいのりお	開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中
担当者名	國井法夫	修得単位	4単位
授業のテーマ	3級の範囲をわかりやすく説明するとともに、問題をやる。		
到達目標	日商簿記検定試験3級に合格		
授業概要	普通科出身の学生を対象にわかりやすく解説して行く。		

授業計画			
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2) 買掛金とは その処理
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1) 貸付金・手形貸付金等の処理
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2) 未収金・未払金等の処理
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1) 手形とは
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2) 手形の処理方法
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却 減価償却とは その処理方法
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金 処理方法について
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成 仕訳から総勘定元帳への転記の確認
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票 3伝票制の処理について
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表 決算手続きについて
第12回	現金預金取引(3) 当座・当座買い越しについて	第28回	決算と財務諸表 売上原価の計算とその処理について
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表 費用収益の繰延べと見越し等
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	損益計算書と貸借対照表の作成
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

授業時間外の学習	復習と問題演習
履修条件・受講のルール	欠席しない。授業は静かに聞くこと。
テキスト	日商簿記3級 光速マスターNEO テキスト 第4版【2019年度新出題区分対応】 (光速マスターシリーズ)
参考文献・資料	
成績評価の方法	試験の得点 (60%)・レポート提出 (10%)・出欠・学習態度 (30%) 等で総合評価します。 出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	金曜日 4時間目
成績評価の基準	平成28年度 (2016) 以降入学した学生 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下) 平成27年度 (2015) 以前に入学した学生 優 (100~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	欠席せず、静かに授業を聞き、積極的に問題演習ができる人のみ受講してください。

科目名	国際経済学 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	International Economics I	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	坂元 浩一	修得単位	2単位
授業のテーマ	国際経済取引について、仕組みと現状を理解する。		
到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動(貿易と投資)を十分に理解できるようになります。 2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。 		
授業概要	<p>本講義では、国際経済取引の全体像として国際収支を学び、その構成要素である外国貿易と外国(海外)直接投資の理論を中心に学びます。必要に応じて、歴史と政策を説明します。教員の実際の海外での経験を交えながら、理解を深めてもらいます。他の構成要素や分野については、国際経済学IIで扱います。</p>		
授業計画			
第1回	イントロダクション(国際経済の内容、アプローチ)		
第2回	世界経済、地域経済、日本経済の現状		
第3回	国際収支I(基礎事項とトレンド)		
第4回	国際収支II(捉え方、枠組み)		
第5回	国際収支III(基礎事項とトレンド)		
第6回	為替レートI(基礎事項とトレンド)		
第7回	為替レートII(理論)		
第8回	為替レートIII(理論と政策)		
第9回	外国貿易I(基礎事項とトレンド)		
第10回	外国貿易II(理論)		
第11回	外国貿易III(理論と政策)		
第12回	外国直接投資(FDI)I(基礎事項とトレンド)		
第13回	外国直接投資(FDI)II(理論)		
第14回	外国直接投資(FDI)III(理論と政策)		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度) 		
履修条件 受講のルール	<p>ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましいです。しかし、未履修でも本授業に積極的に取り組むことにより、好成績で単位を取得できます。</p>		
テキスト	なし(下記の『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』に準拠して進めます)		
参考文献・資料	<p>坂元浩一『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』(電子書籍)大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房、1996年。</p>		

成績評価の方法	<p>【小テスト・レポート(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	<p>毎週火曜日・金曜日 14:30～16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。</p>
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると思います。</p>

科目名	社会保障論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
英文表記	Social Security	開講年次	経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
ふりがな	ふじもと つよし	開講期間	□1年 ■2年 □3年 □4年
担当者名	藤本 剛	修得単位	■前期 □後期 □通年 □集中
授業のテーマ	社会保障制度の基本を理解し、公的年金、企業年金、公的医療保険・介護保険等の現状と課題を考える。		
到達目標	健やかで豊かな暮らしを実現するために何が必要か。将来に向けた取り組みを考察する。		
授業概要	20歳になると学生であっても、国民年金の保険料を納める義務が生じます。特例制度の適用申請を行って、とりあえずは納付を先延ばしした人もいるでしょう。老後や障害に備えた保障の準備は国民に求められています。病気や怪我に対する備えも同様です。社会保険のシステムを用いた社会保障制度は国民の豊かで健やかな生活の実現を目指しています。制度は複雑で変化も大きいですが、現状は？将来は？さまざまな課題がある中で、私たちの将来を共に考える科目です。		
授業計画			
第1回	社会保障とは何か、その歴史と背景		
第2回	社会保障の体系、社会保険について		
第3回	雇用保険①		
第4回	雇用保険②、労働者災害補償保険		
第5回	公的年金制度① (制度と内容1)		
第6回	公的年金制度② (制度と内容2)		
第7回	公的年金制度③ (制度と内容3)		
第8回	企業年金① (制度と内容)		
第9回	企業年金② (現状と課題)		
第10回	公的医療保険① (制度の概要)		
第11回	公的医療保険② (国民健康保険)		
第12回	公的医療保険③ (組合健康保険、協会けんぽ)		
第13回	公的医療保険④ (DPC、薬事)		
第14回	公的介護保険① (制度の概要)		
第15回	公的介護保険② (現状と課題)		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業の予習・復習を心がけてください。(0.5時間程度) 授業で取り上げるテーマに関連するレポートやメッセージを求めることがあります。		
履修条件 受講のルール	日頃からテレビや新聞などで、年金や医療保障、雇用保険など社会保障に関する情報に関心を持ってチェックしてください。(0.5時間程度)		
テキスト	プリントを使用します。		
参考文献・資料	『公務員Vテキストシリーズ 社会政策』第12版 TAC出版 『厚生労働白書』各年版		
成績評価の方法	【レポート(30%)、定期試験(70%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。		

オフィスアワー	毎週火曜日・水曜日 16:00~17:00 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降に入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	社会保障制度は複雑で、また毎年のように変化しています。現状を理解することが、将来に備える上で重要であることを意識して、積極的に取り組んでください。

科目名	マクロ経済学 II	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Macroeconomics II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	島山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済学への入門授業です。		
到達目標	学生は、マクロ経済学の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学の考え方のうち重要概念である労働市場、総需要・総供給、インフレーション・デフレーションおよび失業について学習し、これらの知識を前提として「物価変動」を考慮した場合のマクロ経済政策効果を分析します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	物価と総需要1(総需要曲線)		
第3回	物価と総需要2(物価水準の変化および経済政策の効果)		
第4回	労働市場と総供給1(古典派の総供給曲線)		
第5回	労働市場と総供給2(ケインズ派の総供給曲線)		
第6回	AD-AS分析1(総需要・総供給と経済政策の有効性)		
第7回	AD-AS分析2(需要ショックと供給ショック)		
第8回	前半のまとめ		
第9回	物価変動と失業の社会的費用1(インフレーション)		
第10回	物価変動と失業の社会的費用2(デフレーション)		
第11回	物価変動と失業の社会的費用3(失業)		
第12回	フィリップス曲線1(物価上昇率と失業率の相関関係)		
第13回	フィリップス曲線2(期待で修正されたフィリップス曲線)		
第14回	フィリップス曲線3(裁量的財政政策・金融政策の再評価)		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください(1.5時間程度)。		
履修条件 受講のルール	マクロ経済学Iの単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学(第4版)」 岩波書店(2017) ブランシャール 「マクロ経済学(下)」 東洋経済新報社(2000)など		
成績評価の方法	小テスト(20%)、定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。		

成績評価基準	2016 年以降に入学した学生：秀(100～90 点), 優(89～80 点), 良(79～70 点), 可(69～60 点), 不可(59 点以下) 2015 年以前に入学した学生：優(100～80 点), 良(79～70 点), 可(69～60 点), 不可(59 点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は, 授業後の復習を行うとともにインターネット, テレビ, 新聞, 雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。

科目名	ゲーム理論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Game Theory	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	ゲーム理論への入門授業です。		
到達目標	学生は、ゲーム理論の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、ゲーム理論の考え方のうち重要概念である戦略形ゲームおよび展開形ゲームについて説明します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	ゲーム理論とは何か (ゲームの定義, ゲーム理論の考え方, ゲーム理論における経済主体)		
第3回	戦略形ゲーム1 (戦略形表現)		
第4回	戦略形ゲーム2 (戦略形ゲームのナッシュ均衡と最適反応)		
第5回	戦略形ゲーム3 (支配戦略)		
第6回	戦略形ゲーム4 (支配される戦略の繰り返し削除)		
第7回	戦略形ゲーム5 (支配戦略と最適反応の関係)		
第8回	前半のまとめ		
第9回	展開形ゲーム1 (展開形表現)		
第10回	展開形ゲーム2 (バックワード・インダクション)		
第11回	展開形ゲーム3 (展開形ゲームのナッシュ均衡)		
第12回	展開形ゲーム4 (サブ・ゲーム完全均衡)		
第13回	情報とゲーム1 (情報集合と情報構造)		
第14回	情報とゲーム2 (ベイズ完全均衡)		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください (1.5時間程度)。		
履修条件 受講のルール	ミクロ経済学I, マクロ経済学I, 基礎数学I・IIの単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	岡田章 「ゲーム理論・入門」 有斐閣 (2014) など		
成績評価の方法	小テスト(20%), 定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。		
成績評価基準	2016年以降に入学した学生: 秀(100~90点), 優(89~80点), 良(79~70点), 可(69~60点), 不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生: 優(100~80点), 良(79~70点), 可(69~60点), 不可(59点以下)		

学生への
メッセージ

経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。

科目名	経済政策学	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	野口 秀行	修得単位	2単位
授業のテーマ	日本経済の再興と第4次産業革命への対応		
到達目標	日経新聞が読解できる。		
授業概要	アベノミクスによりデフレスパイラルからの脱却は目前に迫っている。その一方で、世界は大変革の時代を迎えようとしている。日本はその変革とは何か、そしてその変革に対応できるのだろうかを解き明かす。		
授業計画			
第1回	日本の置かれている状況把握～トランプ政権・イギリスのEU離脱、日本の外交政策の転換		
第2回	リーマンショックとは何だったのか～世界経済のバブル崩壊と日本経済の停滞		
第3回	米国とEUと日本などの先進国の停滞と中国・インド・ロシアなどの新興国の台頭		
第4回	円高と主要産業の国際競争力の喪失～東芝とシャープの経営破綻		
第5回	先進国による超金融緩和政策と産業構造改革～世界経済の牽引役の交代～新興国から日米へ		
第6回	中国をはじめとする新興国金融市場の脆弱性～民間企業の借り入れ著増ともなうリスクと米国の利上げ		
第7回	原油価格等資源価格の下落と日本のエネルギー政策～脱炭素政策と金融市場の変化		
第8回	行き詰まる中韓経済と朝鮮半島情勢の見方～米国のアジア政策と北朝鮮の核開発と韓国の親中反米政権樹立		
第9回	第4次産業革命とは何なのか～IoT AI BD シンギュラリティについて		
第10回	仮想通貨がもたらした金融構造の変革～ビットコインとブロックチェーンそしてICO		
第11回	グローバルイノベーションと日本の科学技術政策～コネクテッドインダストリーズ		
第12回	アベノミクスの総仕上げとしての地域創生～如何に地域の生産性を引き上げるのか		
第13回	ポストアベノミクスとしての第4次産業革命～今後5年間でAIはここまで進む		
第14回	未来投資戦略 2018 ～Society 5.0 の実現に向けた改革～機械が人間に代替する職業とは		
第15回	今後の世界経済の行方を展望する～日米独どこが覇権を握るのか？中国は中所得国の罠から抜け出せるのか		
第16回	期末試験		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件 受講のルール	経済の基礎的な知識を有すること		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数が規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）		

学生への
メッセージ

経済を面白く楽しく学びます

科目名	地方財政論		科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ) 経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Local Public Finance		開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	くすやま ひろあき		開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	楠山大暁		修得単位	2単位
授業のテーマ	人口減少社会に直面しているわが国の地方財政システムが抱える課題を経済学的に理解する			
到達目標	地方財政の現状について経済学的に理解する			
授業概要	国、地方をあわせ1,000兆円を超える債務を日本の財政は抱えています。その一方で、人口減少社会が進行している地域の持続可能性を、いかにして維持していくかが問われています。本講義では、基本的な地方財政システムを学ぶとともに、地方政府が抱える問題の本質を経済学的に分析していきます。			
授業計画				
第1回	ガイダンス、地方財政とは何か			
第2回	地方財政の仕組み			
第3回	地方交付税交付金			
第4回	地方税			
第5回	地方分権改革			
第6回	少子高齢と地域の持続可能性			
第7回	政府の機能配分論			
第8回	中間テスト			
第9回	分権化のメリット			
第10回	分権化のデメリット			
第11回	補助金とソフトな予算制約			
第12回	地方財政の健全化			
第13回	地方財政のあるべき姿			
第14回	地域包括ケアシステム			
第15回	コンパクトシティ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業前にプリントに目を通してください。理解できる箇所、できない箇所を明確にしてください。(2時間程度) 2. 授業後に、プリントの復習をしっかりと、すべて理解できるようにしてください。(2時間程度)			
履修条件 受講のルール	ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、財政学入門を履修していることが望ましい。 教科書を購入してください。			
テキスト	佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社			
参考文献・資料	中井英雄・齊藤慎・堀場勇夫・戸谷裕之『新しい地方財政論』有斐閣			
成績評価の方法	【平常点(10%)、中間テスト(40%)、定期試験(50%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題は授業内で提示します。 ・授業の理解及び予復習が充分であることを確認するため、第8回授業時に中間テストを実施します。
オフィスアワー	<p>毎週月曜日・金曜日 10:40~12:10</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生</p> <p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015)以前に入学した学生</p> <p>優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>地方行財政の現状・課題に対して問題意識をもってください。</p>

科目名	経営戦略論		科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)	
				経済学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
				学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Strategic Management		開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年	
ふりがな	い ち ょ ん み ん		開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中	
担当者名	李 廷 珉		修得単位	2単位	
授業のテーマ	グローバル化と戦略(型)経営				
到達目標	戦略的思考を身につけ就職活動に役立てる				
授業概要	<p>経営史家として有名なチャンドラー教授によれば、戦略(strategy: ストラテジー)とは、「長期的な目標を定め、それをいかに達成するかという方針」のことです。したがって、戦略は、何も取締役などの経営陣や経営企画部の上位管理担当者だけに必要とされるものではなく、全社的に意識を高める意味でマネジメントに関わるあらゆる部署のそれぞれの担当者にも必要とされるものです。そして、より重要なことは、その戦略が株主や地域社会、消費者や協力企業、NPOなどのステークホルダを重視したものでなければ、社会の中において企業活動を続け、事業体として存続することができなくなるということです。これらの論点に関して、本講義は、その理論的な背景を追いつつ、事例研究を紹介しながら、「企業経営と社会」の問題の理解を深めます。</p>				
授業計画					
第1回	イントロダクション				
第2回	戦略の理解－企業経営における戦略の意味、その重要性－				
第3回	経営環境の理解－SWOT分析－				
第4回	経営環境の理解－外部環境の分析－				
第5回	経営環境の理解－内部環境の分析－				
第6回	事業ドメインの確立				
第7回	成長戦略－製品・市場マトリックス				
第8回	成長戦略－プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM)				
第9回	競争戦略－ポーター教授と競争戦略の意義－				
第10回	競争戦略－業界分析 (five forces analysis)				
第11回	競争戦略－3つの基本戦略－				
第12回	競争戦略－価値連鎖 (value chain) と戦略的ポジションニング－				
第13回	競争戦略－経営戦略研究の最近の動向について (RBVの考え方との関連で) －				
第14回	戦略実行とコントロール				
第15回	復習・総括				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 新聞、その他の経済誌、何れかのうち、一つを選び、継続して読んでいく習慣をつけて下さい。 2. 暇を見つけては、図書館へ行き情報を収集し、先生方の研究室へ行き議論を仕掛けて下さい。				
履修条件 受講のルール	日本経済論、経営学基礎論、経営管理論、人的資源管理論を受講することが望ましい。				
テキスト	講義資料 (パワーポイント資料) を配布する				
参考文献・資料	石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論』有斐閣、2008年。 李廷珉「韓国サムスン電子の東アジア戦略と日本の経営」、林正樹編著『現代日本企業の競争力－日本の経営の行方－』ミネルヴァ書房、2011年。 Ian Marcouse, Denry Machin, Philippa Anderson, Nigel Watson, Alexandra Black, <i>The Business Book</i>				

	Dorling Kindersley, 2014.				
成績評価の方法	受講状態により判断するが、次の2つの目標の達成度を勘案する。すなわち、履修目標と到達目標の2点である。履修目標とは授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標であり、到達目標とは授業において最低限学生が身につける内容を示す目標である。				
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00~14:30				
成績評価基準	秀	優	良	可	不可
	履修目標を超えたレベルを達成している。	履修目標を達成している。	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している。	到達目標を達成している。	到達目標を達成できていない。
	出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金未納の場合は試験を受けることができない。				
学生へのメッセージ	Start small, think big!				

科目名	統治機構	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)	
			法律学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
			国際観光学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Frame of Government	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年	
ふりがな	わたなべ たけし	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中	
担当者名	渡部 毅	修得単位	4 単位	
授業のテーマ	立憲主義とは何かを理解したうえで、権力分立の原理など、日本国憲法が定める日本の統治構造の基本的な枠組みを理解し、説明できる。			
到達目標	憲法が定めている国の政治のしくみの概要を理解するとともに、統治機構と人権保障の相互関係が、「手段」と「目的」の関係になっているのだということが説明できるようになる。			
授業概要	国会、内閣、裁判所を中核とするわが国の政治のしくみ(統治機構)について解説をします。統治機構は、国家権力の濫用から国民の自由を守るためのシステムと位置づけられます。わが国の政治で採用している権力分立のしくみや、権力相互間の牽制手段等について理解を深めてもらいたいと考えております。			

授業計画

第1回	はじめに 統治機構で学ぶ内容	第17回	司法権の概念・範囲
第2回	明治憲法の特徴	第18回	司法権の限界
第3回	日本国憲法の制定	第19回	裁判所の組織と権能
第4回	国民主権	第20回	司法権の独立
第5回	天皇制	第21回	財政民主主義
第6回	権力分立の原理	第22回	予算の法的性格
第7回	国会の地位	第23回	地方自治の意義・本旨・地不公共団体
第8回	国会の組織と活動(1) 二院制 衆議院の優越	第24回	条例制定権の限界
第9回	国会の組織と活動(2) 国会議員の地位 会期	第25回	憲法の保障
第10回	国会と議院の権能(1) 立法権 その他の権能	第26回	違憲審査制
第11回	国会と議院の権能(2) 議院の自律権 国政調査権	第27回	違憲判断の方法
第12回	行政権と内閣 行政の概念 独立行政委員会	第28回	憲法改正の手続と限界
第13回	内閣の組織と権能(1) 内閣の構成員	第29回	平和主義(1) 戦力の不保持 交戦権の否認
第14回	内閣の組織と権能(2) 内閣の権能	第30回	平和主義(2) 自衛権 憲法9条の政府解釈
第15回	議院内閣制	第31回	期末試験
第16回	中間試験		

授業時間外の学習	教科書を使って、予習(1時間程度)および復習(1時間程度)の習慣を確立する。わからないところは図書館で調べる。新聞の政治面を継続的に読む。こうした地道な努力をすることで、より理解を深めることができます。
履修条件 受講のルール	「人権」(後期開講予定)もあわせて履修してください。適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には、原則として配布しませんので、友人同士でコピーするなどしてください。
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』(第6版)(岩波書店・2015年)。
参考文献・資料	六法は必携。憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第6版)(有斐閣・2013年)。適宜、資料を配布します。
成績評価の方法	<p>【レポート(20%)、定期試験(80%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日 11時~12時および金曜日 13時~14時としますが、所用により不在の場合もあります。

	<p>なお、これ以外の時間帯でも、研究室に在室している場合は、随時可能です。</p>
成績評価の基準	<p>平成 28 年度 (2016) 以降入学した学生 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p> <p>平成 27 年度 (2015) 以前に入学した学生 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>統治機構の学習は、条文を踏まえつつ、どのような制度になっているのかについて理解することが重要になります。煩を厭わずに、条文を参照しましょう。</p>

科目名	親族・相続法 (家族法)	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			法律学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Family Law	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	さとう かつえ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	佐藤 克枝	修得単位	4単位	
授業のテーマ	婚姻、離婚、親子、扶養および相続など家族に関する制度や法的諸問題について学ぶ。			
到達目標	親族法、相続法のそれぞれについて、基本事項を説明することができる。事案を見て、何が法的に問題となっているかを指摘し、意見を述べることができる。			
授業概要	家族における法的な問題とその解決方法を学びます。また、少子・高齢化、生殖補助医療技術の発展など、民法制定時には想定されていなかった問題についてもふれていきます。			
授業計画				
第1回	民法における家族法の位置づけ、家族法の歴史	第17回	相続人の範囲と順位、相続分(相続人・法定相続分のルール、代襲相続、法定相続分の修正)	
第2回	親族法概観(親族関係の概念、範囲、相互扶助)	第18回	相続欠格・相続排除、相続回復請求権	
第3回	婚姻の要件(婚姻障害、届出、婚姻意思の合致、婚姻の無効・取消し)	第19回	相続財産の範囲(包括継承、相続の対象となる権利義務①)	
第4回	婚姻の一般的効果(夫婦間、夫婦以外の第三者との関係)	第20回	相続財産の範囲(相続の対象となる権利義務②)	
第5回	夫婦財産制	第21回	相続の対象とならない権利義務 祭祀財産	
第6回	離婚(離婚の方法)	第22回	法定相続分の計算	
第7回	離婚(離婚の効果)	第23回	遺産共有・遺産分割(1)	
第8回	婚姻外の男女関係(婚約・結納、内縁)	第24回	遺産共有・遺産分割(2)	
第9回	実子(親子関係の基本的枠組み、嫡出子と非嫡出子)	第25回	相続の承認・放棄(単純承認・限定承認・放棄) 遺産分離	
第10回	生殖補助医療により生まれた子の親子関係	第26回	相続人の不存在(相続人不在における財産の清算、特別縁故者による財産分与請求、国庫帰属)	
第11回	養子(制度の概観、普通養子、離縁、特別養子)	第27回	遺言(遺言能力、方式、遺言事項、効力、執行)、撤回)	
第12回	親権(親権の行使、制限、終了)	第28回	遺言(記載要領)	
第13回	後見(成年後見制度の概観、法定後見、任意後見、登記)	第29回	遺留分(遺留分権者と遺留分の割合、算定の基礎となる財産、遺留分減殺請求権)	
第14回	扶養(権利義務、順位、方法、扶養請求権の処分禁止等)	第30回	後半のまとめ	
第15回	前半のまとめ	第31回	後期定期試験	
第16回	相続概観(相続の意義、特徴、相続の開始) 中間試験			
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所に必ず目を通してください。(2時間程度) 2. 単元毎に、前回講義内容の確認を行います。講義の復習をしっかりと行ってください。(2時間程度)			
履修条件・受講のルール	民法総則の単位を修得していることを前提に授業を進めます。 適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。			
テキスト	本山敦ほか『家族法』日本評論社			
参考文献・資料	佐藤義彦ほか『民法V—親族相続法(第4版)』有斐閣、田山輝明『事例で学ぶ家族法(第4版)』法学書院、『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣、青竹美香ほか『START UP 民法⑤親族・相続判例30!』有斐閣			

成績評価の方法	<p>【試験（中間40%、期末40%）、受講態度20%】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	月曜日09:00～10:30・水曜日14:40～16:10
成績評価の基準	<p>平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）</p> <p>平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）</p>
学生へのメッセージ	<p>家族法（親族法・相続法）では、家族という身近な関係を対象としている対象としているので比較的とりかかりやすい領域です。また民事の法律相談では大半を占める内容ですので積極的な履修を期待します。</p>

科目名	刑法各論	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)
			法律学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Criminal Law (Crimes)	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	おかざき しょうへい	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	岡崎 頌平	修得単位	4単位
授業のテーマ	個別の犯罪の成立に関するルール、他の犯罪類型との関係が理解できるようになる。		
到達目標	受講者は、本講義を履修することによって、個別の犯罪の成立に関するルール、他の犯罪類型との関係について正確に理解することができるようになる。		
授業概要	本講義では、刑法総論で学習する刑法の基本原則と一般的な犯罪成立要件の知識にも言及しながら、個別の犯罪の成立・不成立に関するルールについて学習します。 なお、この授業では、教科書は予習・復習用とし、レジュメに基づいて行います。		
授業計画			
第1回	イントロダクション; 生命に対する罪① 殺人罪	第17回	財産に対する罪⑦ 横領罪1
第2回	生命に対する罪② 堕胎罪、遺棄罪	第18回	財産に対する罪⑧ 横領罪2
第3回	身体に対する罪① 暴行罪、傷害罪	第19回	財産に対する罪⑨ 背任罪、盗品等に関する罪
第4回	身体に対する罪② 凶器準備集合罪、過失致死傷罪	第20回	財産に対する罪⑩ 毀棄・隠匿罪
第5回	自由に対する罪① 脅迫・強要罪	第21回	公共危険罪① 騒乱罪・放火罪1
第6回	自由に対する罪② 逮捕・監禁罪、略取・誘拐・人身売買罪	第22回	公共危険罪② 放火罪2
第7回	自由に対する罪③ 性的自由に対する罪1	第23回	公共危険罪③ 往来妨害罪
第8回	自由に対する罪④ 性的自由に対する罪2、住居侵入罪	第24回	取引等の安全に対する罪① 通貨偽造罪、文書偽造罪1
第9回	人格的法益に対する罪	第25回	取引等の安全に対する罪② 文書偽造罪2、その他の偽造罪1
第10回	信用及び業務に対する罪	第26回	取引等の安全に対する罪③ その他の偽造罪2
第11回	財産に対する罪① 窃盗罪	第27回	風俗に対する罪
第12回	財産に対する罪② 強盗罪1	第28回	国家の存立に対する罪・国交に関する罪
第13回	財産に対する罪③ 強盗罪2	第29回	国家の作用に対する罪① 公務執行妨害罪
第14回	財産に対する罪④ 詐欺罪1	第30回	国家の作用に対する罪② 司法作用に対する罪、汚職の罪
第15回	財産に対する罪⑤ 詐欺罪2	第31回	定期試験
第16回	財産に対する罪⑥; 中間試験 恐喝罪		
授業時間外の学習	各回の授業で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと。(予習: 120分) それぞれの回で扱った内容について、レジュメ等を使って振り返ること。(復習: 120分)		
履修条件 受講のルール	刑法入門の単位を修得済みであることが望ましい。 最新の六法を必ず持参すること。		
テキスト	①井田良『入門刑法学・各論〔第2版〕』有斐閣(2018)		

	<p>②井田良・佐藤拓磨『刑法各論〔第3版〕』弘文堂(2017)</p> <p>③松原芳博『刑法概説』成文堂(2018)</p> <p>①を基本的には教科書とするが、同じ著者による入門書としては②もあるので、挙げておく。 また、総論・各論の両方をコンパクトに説明している最近の教科書としては、③が挙げられる。</p>
参考文献・資料	<p>十河太朗ほか『刑法各論判例50!』有斐閣(2017年);山口厚ほか『刑法判例百選Ⅱ〔第7版〕』有斐閣(2014); 西田典之ほか『判例刑法各論〔第7版〕』有斐閣(2018);西田典之(橋爪隆補訂)『刑法各論〔第7版〕』弘文堂(2018)</p>
成績評価の方法	試験70%(中間試験30%、定期試験40%)、小テスト30%
オフィスアワー	月曜日14:40~16:10;水曜日14:40~16:10
成績評価の基準	<p>平成28年度(2016年)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015年)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。</p>
学生へのメッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。

科目名	債権総論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			法律学科 □必修 ■選択
			国際観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Civil Law (Claims and Obligations)	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	かわぐち まこと	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	川口 誠	修得単位	4単位
授業のテーマ	民法の債権法をマスターする - その1 (債権に共通する性質や効力など)		
到達目標	債権総論の基礎的な内容、関連する判例・学説を理解し、公務員試験などの過去問が解ける。		
授業概要	民法の財産法分野のうち、債権法領域で、まず債権総論(債権編 第1章総則)を学びます。債権の意義から目的(種類)、効力(とくに債務不履行と、責任財産の保全の手段)、移転(譲渡など)、消滅といった、発生から消滅まで、および多数当事者の債権債務関係が範囲です。種々の債権に共通する事項が対象です。カリキュラム上は選択科目ですが、民法を学ぶということでは必修と言ってよいと思います。		
授業計画			
第1回	ガイダンス 債権の意義	第17回	詐害行為取消権1 意義・要件
第2回	債権法の内容1 債権法の範囲	第18回	詐害行為取消権2 行使・効果
第3回	再燃法の内容2 債権法の特徴	第19回	多数当事者の債権債務関係 概観
第4回	債権の目的 債権の種類1 特定物債権ほか	第20回	分割債権・債務 不可分債権・債務
第5回	債権の種類2 金銭債権ほか	第21回	連帯債務1 意義・要件
第6回	債権の種類3 選択債権ほか	第22回	連帯債務2 効力、不真正連帯債務
第7回	債権の実現 履行の強制	第23回	保証債務1 普通保証・連帯保証
第8回	債務不履行の基礎的事項	第24回	保証債務2 共同保証・継続保証ほか
第9回	債務不履行1 履行不能	第25回	債権譲渡1 意義・機能・対抗要件
第10回	債務不履行2 履行遅滞	第26回	債権譲渡2 効果ほか
第11回	債務不履行3 不完全履行	第27回	債務引受
第12回	損害賠償1 意義と共通原則	第28回	債権の消滅 弁済・代物弁済・供託
第13回	損害賠償2 理論的問題	第29回	相殺
第14回	受領遅滞	第30回	更改・免除・混同
第15回	責任財産の保全 債権者代位権1 意義・要件	第31回	定期試験
第16回	債権者代位権2 行使・効果		
授業時間外の学習	まずテキストの通読(最後まで)。つぎに毎回の授業前に、前回部分を復習し(1.5時間程度)、予定の部分に目を通しておくこと(1.5時間程度)。法律関連職を希望する学生は、あわせて「民法判例百選」、「民法の争点」の該当、関連部分を学ぶことが理想。		
履修条件 受講のルール	1年で「民法入門」、民法総則を履修し、2年で物権法を履修していることが望ましい。		
テキスト	野村ほか著『民法Ⅲ - 債権総論』(有斐閣Sシリーズ)		
参考文献・資料	講義で適宜指摘します。またプリントも配布しますので、必ず受け取って復習に利用して下さい。		
成績評価の方法	期末試験75%、小テスト・レポート15%、授業参加・態度10%で、総合的に判断。 出席回数が規定に満たない場合および授業料等が未納の場合は、試験を受験できません。		
オフィスアワー	毎週月曜・木曜 14:40~16:10。その他、研究室にいるときはいつでも声を掛けて下さい。		
成績評価の基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※平成28年度以降の入学生		
学生への メッセージ	債権法は、契約や不法行為など、日常生活や社会生活上たいへん重要な分野です。就職(とくに公務員試験)でも大切ですが、社会に出てから役立つ分野ですので、しっかり学んで下さい。		

科目名	債権各論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			法律学科 □必修 ■選択 国際観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Civil Law (Particular Claims and Obligations)	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	たかはし ゆうすけ	開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中
担当者名	高橋 佑輔	修得単位	4 単位
授業のテーマ	人に対する権利(債権)の発生原因とその内容を学ぶ		
到達目標	債権各論の内容を理解し、適切に説明することができる		
授業概要	債権各論では、「人」に対する権利である債権の発生原因や法的性質等を取り扱います。個別の債権発生原因として民法上定められている契約・事務管理・不当利得・不法行為等について紹介し、それぞれの債権ごとの性質について、制度趣旨や実務上の問題点を踏まえて解説します。		
授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	雇用契約
第2回	債権の発生原因、契約の成立	第18回	請負契約
第3回	契約の意義と分類	第19回	委任契約
第4回	契約成立における諸問題	第20回	寄託、組合、終身定期金、和解
第5回	契約の効力① 同時履行の抗弁	第21回	非典型契約
第6回	契約の効力② 危険負担	第22回	事務管理
第7回	契約の効力③ 第三者のためにする契約	第23回	不当利得① 成立要件等
第8回	契約の解除	第24回	不当利得② 特殊な不当利得
第9回	債権発生原因としての契約の意義	第25回	一般不法行為① 成立要件等
第10回	契約各論の概要	第26回	一般不法行為② 不法行為の効果等
第11回	贈与契約	第27回	特殊の不法行為① 民法上の特則
第12回	売買契約① 総論	第28回	特殊の不法行為② 特別法上の特則
第13回	売買契約② 担保責任等	第29回	不法行為のまとめ
第14回	貸借型契約① 賃貸借	第30回	債権総論との関係等
第15回	貸借型契約② 消費貸借 使用貸借	第31回	全体のまとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 直前回の講義でふれた内容について、教科書の該当部分を読んで復習すること。 教科書に記載されている判例については可能な限り内容を確認する。 		
履修条件 受講のルール	民法入門で学ぶ範囲の知識は修得済みであることを前提に講義を進めます。各回の配布資料は、事前の連絡なしで欠席した学生には配布しませんので、学生間でコピーする等してください。		
テキスト	藤岡康宏 他『民法Ⅳ－債権各論[第4版]』(有斐閣Sシリーズ)		
参考文献・資料	適宜指示します。六法必携		
成績評価の方法	試験結果(中間50%、期末50%)に平常点(出席状況)を加味して最終評価します。出席回数が規定に満たない場合及び授業料等を納めていない場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	月曜日13:00~14:30・木曜日13:00~14:30		
成績評価の基準	平成28年度以降入学した学生:秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(50点以下) 平成27年度以前に入学した学生:優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(50点以下)		

学生への
メッセージ

債権各論では、社会内の企業間取引や私的な取引等で頻繁に問題となる金銭請求等に関連する法分野を取り扱います。民法の中でも特に社会生活に関わりの深い分野ですので、積極的に学んでください。

科目名	物権法 (生活と物権)	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			法律学科	□必修 ■選択
英文表記	Property Law	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	たかはし ゆうすけ	開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中	
担当者名	高橋 佑輔	修得単位	4 単位	
授業のテーマ	物に関する権利とその内容を学ぶ			
到達目標	物権の内容を理解し適切に説明することができる			
授業概要	物権法では、その名のとおり「物」に対する権利を取り扱います。「物」といっても、世の中にはノートや鉛筆からテレビ、自動車、不動産まで多種多様な「物」が存在します。また、人々の社会活動が多様化するに従い、「物」に対する権利も多様化しています。本講義では、社会内における「物」に対する権利について具体的事例をなるべく多く提示しながら見ていきます。			

授業計画			
第1回	ガイダンス・物権法とは	第17回	地上権・地役権・永小作権・入会権
第2回	物権の本質・客体	第18回	共有
第3回	物権の目的および効力	第19回	担保物権総論
第4回	物権の変動① (発生と移転)	第20回	抵当権序説
第5回	物権の変動② (登記とその効果)	第21回	抵当権の効力
第6回	物権の変動③ (民法177条①)	第22回	抵当権の処分
第7回	物権の変動④ (民法177条②)	第23回	抵当権の消滅
第8回	物権の変動⑤ (動産物権変動)	第24回	根抵当権
第9回	物権の変動⑥ (明認方法)	第25回	法定地上権
第10回	物権の変動⑦ (即時取得)	第26回	留置権
第11回	所有権	第27回	先取特権
第12回	所有権の取得	第28回	質権
第13回	占有の意義と種類	第29回	変則的担保総論
第14回	占有の取得・消滅と効果	第30回	譲渡担保・仮登記担保・所有権留保
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 直前回の講義でふれた内容について、教科書の該当部分を読んで復習すること。 教科書に記載されている判例については可能な限り内容を確認する。
履修条件 受講のルール	民法入門で学ぶ範囲の知識は修得済みであることを前提に講義を進めます。各回の配布資料は、事前の連絡なしで欠席した学生には配布しませんので、学生間でコピーする等してください。
テキスト	小泉健『物権法概説』(春風社)
参考文献・資料	『民法判例百選Ⅰ (第8版)』(有斐閣); 六法必携
成績評価の方法	試験結果 (中間50%, 期末50%) に平常点 (出席状況) を加味して最終評価します。出席回数が規定に満たない場合及び授業料等を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 13:00~14:30・木曜日 13:00~14:30
成績評価の基準	平成28年度以降入学した学生: 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (50点以下) 平成27年度以前に入学した学生: 優 (100~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (50点以下)

学生への
メッセージ

物権法は不動産取引など社会にとって重要な活動にかかわる法分野でもあるので、本講義を通じて理解を深めてください。

科目名	観光論入門Ⅰ	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ) 国際観光学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introduction to Tourism Theory I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	いのうえ ひろし	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	井上 寛	修得単位	2単位
授業のテーマ	「観光」のキーワードを学ぼう		
到達目標	1. 観光学とはどのような学問なのか全体的に理解できるようになる 2. 観光学のキーワードを理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
授業概要	国際観光学科入学後、はじめての観光について専門的に学ぶ科目です。これから4年間観光を学ぶ上で必要な知識や考え方を学びます。特に、最新の観光について学ぶことを重視しますので、新聞やニュースの出来事を講義でも取り入れていきます。		
授業計画			
第1回	現代社会と観光		
第2回	観光を学ぶ意義		
第3回	観光の様々な効果		
第4回	旅と旅行・観光		
第5回	余暇・レクリエーション・ホスピタリティ		
第6回	観光を構成する要素		
第7回	観光資源と観光対象		
第8回	観光政策と観光行政		
第9回	国の観光政策と観光行政		
第10回	地方における観光政策と観光行政		
第11回	わが国におけるインバウンドの動向		
第12回	観光と国際社会・文化の関わり		
第13回	旅の歴史とこれからの旅行		
第14回	マスツーリズムからサステイナブル・ツーリズムへ		
第15回	復習		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	<予習> 授業終了時に次回のキーワードを紹介しますので、教科書、参考文献、WEBサイトなどを活用し、予習をしてください。(90分程度) <復習> ノートを確認し、テキストのself checkを使用し復習をしてください。(90分程度) <その他> 新聞やテレビ、インターネットには「観光」の話題が豊富です。常日頃より観光のニュースに関心を持って生活してください。(30分程度)		
履修条件 受講のルール	必修科目に指定されています。観光学を学ぶ上での基本となりますので、国際観光学科1年生は観光論入門Ⅱ(後期)と併せてこの科目を受講してください。 参考資料を印刷したA3サイズのプリントを毎時間配布しますので、バインダーを用意してください。		
テキスト	JTB能力開発『観光学基礎—観光学入門のための14章』(第8版) 2019年 (2,260円+税)		
参考文献・資料	週刊「観光経済新聞」 ※図書館1階にあります 観光庁 http://www.mlit.go.jp/kankocho 日本政府観光局(JNTO) http://www.jnto.go.jp		

成績評価の方法	<p>①定期試験(50%)…知識を問う問題と論述問題を課します</p> <p>②レポート課題(20%)…パソコンで作成し提出してもらいます。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。</p> <p>③小レポート(15%)…毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答する姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。</p> <p>④取り組み姿勢(15%)…遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、悪質な場合は欠席扱いとします。</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 2時限(10:40~12:10)</p> <p>毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)</p>
成績評価基準	<p>平成 28 (2016) 年度以降入学した学生 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p> <p>平成 27 (2015) 年度以前に入学した学生 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>2020 年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、日本全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を 4000 万人にする目標を立てています。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？もちろんその部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問です。</p>

科目名	秋田県の歴史と文化	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			国際観光学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	History and Culture in Akita Prefecture	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	かまだ ゆきお	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	鎌田 幸男	修得単位	2単位	
授業のテーマ	秋田県の歴史と文化、文人の概要を知る。			
到達目標	秋田県の歴史や文化の概要を知り、あわせて郷土の歴史や文化に興味と関心をもち愛着心をもつ。			
授業概要	秋田県の歴史の全体像に触れるが、とくに江戸時代以降の歴史と人物と文化に視点をあてて考える。秋田県は、地理的環境から全国有数の穀倉地帯であり、鉱山地帯、天然の秋田杉産出地でもあった。また秋田を訪ねた文人や紀行家、秋田の偉人にも目を向ける。こうした風土の上に伝統文化を築いてきた。			
授業計画				
第1回	秋田県の夜明け—地理的環境を知る			
第2回	出羽郡と出羽柵と秋田城を考える			
第3回	出羽国と平泉文化—清原氏と後三年の役から			
第4回	神仏を求めて—熊野信仰と修験道の浸透			
第5回	安東氏の秋田進出とその時代—秋田定着、日本海の高運のこと			
第6回	佐竹氏と秋田藩—佐竹義宣、久保田城と町割り			
第7回	鉱山の隆盛と民衆、藩財政を潤した秋田杉、穀倉地帯、油田など			
第8回	土崎港の賑わい—雄物川を下る秋田の米、能代港、北前船の往来			
第9回	近代秋田のはじまり—戊辰戦争と明治初年の秋田			
第10回	みちのく秋田の文化の概要を考える			
第11回	菅江真澄の足跡を考える			
第12回	佐藤信淵と平田篤胤の思想の概要を知る			
第13回	老農・石川理紀之助の足跡を考える			
第14回	秋田県の文化財と民俗文化財を考える			
第15回	戦後の秋田—変わり行く八郎潟干拓とその後			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	① 秋田の歴史や文化に興味・関心をもつ。 ②「道ばたの文化財」を調べてみる。			
履修条件 受講のルール	秋田県の風土や歴史、文化、文人について、関心と興味をもつ。			
テキスト	講義のときプリントを配布			
参考文献・資料	『秋田県の歴史と風土』創土社、『風土と文化』秋田県書店組合。			
成績評価の方法	① 定期試験 (60%)、②小テストを実施 (20%)、③レポート (20%)、 ①②③の総合評価をする。			
オフィスアワー	火曜日 14:40-16:10 *これ以外の場合は事前に連絡すること。			
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。			
学生への メッセージ	① 秋田の歴史や文化、文人に関心をもつ ②史料館や博物館見学をしてほしい。			

科目名	旅行業法と約款	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			国際観光学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Tour Business Law & Articles of Contract	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	みちはた ただよし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	道端 忠孝	修得単位	2単位	
授業のテーマ	旅行業法の目的である旅行者の保護のしくみ(登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など)を修得し、また、格安の料金の(旅行会社の営業所などで配布されている、きれいな旅行パンフレットに掲載されている)募集型企画旅行のしくみを理解し、旅行会社の旅程管理義務のほか、旅行日程等の変更時の旅程保証金の支払責任や死亡時などの特別補償責任などを修得し、さらにそれらの問題点を考えることができるようになる。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1、旅行業務取扱管理者試験の受験対策としての旅行業法・標準旅行業約款の理解ができる。 2、旅行業法の旅行者の保護のしくみ(登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など)が理解できる。 3、募集型企画旅行などにおける申込・契約及びキャンセルなどの基本のほか、旅程管理義務・旅程保証・特別補償制度などが理解できる。			
授業概要	本講義では、旅行業務取扱管理者試験の出題科目である旅行業法と標準旅行業約款を対象とします。旅行業法は、根本的には、旅行者の保護を目的にしていますが、その保護のしくみ(登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など)を明らかにします。 また、旅行業約款は旅行者があらかじめ定める契約条項ですが、現在、標準旅行業約款が用いられていますので、その内容のうち、募集型企画旅行・受注型企画旅行・手配旅行などについて講義します。			
授業計画				
第1回	旅行業法、旅行業務取扱管理者試験の概要			
第2回	旅行業法の目的・体系			
第3回	旅行業法の規制概要			
第4回	旅行業の定義			
第5回	旅行業の登録など			
第6回	営業保証金と弁済業務保証金分担金			
第7回	営業上の規制①(旅行業務取扱管理者・料金規制・旅行業約款規制・標識規制)			
第8回	営業上の規制②(取引条件の説明と契約の規制・外務員規制・広告規制)			
第9回	営業上の規制③(旅程管理規制・受託契約規制・旅行業協会規制・行政処分・罰則)			
第10回	標準旅行業約款の概要			
第11回	募集型企画旅行契約①(申込・契約・キャンセル)			
第12回	募集型企画旅行契約②(旅程管理・旅程保証)			
第13回	募集型企画旅行契約③(特別補償)			
第14回	受注型企画旅行契約			
第15回	手配旅行契約・旅行相談契約			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1、授業開始前に教科書の該当箇所必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1・5時間程度) 2、授業開始前に復習をし、整理しておいてください(1・5時間程度) 3、日頃から新聞に目を通し、切り抜き又はメモをしておいてください。(0・5時間程度)			

履修条件 受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、国内・総合旅行業管理者の受験入門も受講して下さい。 ・テキストを購入して予習・復習をし、ポイント整理をしてください。 ・また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡なく欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。
テキスト	国際文化アカデミーJTB トラベル&ホテルカレッジ『旅行業務取扱管理者<総合・国内>テキスト&問題集』翔泳社
参考文献・資料	ユーキャン旅行業務取扱管理者試験研究会『2019年版旅行業務取扱管理者速習レッスン国内総合』U-CAN、トラベル&コンダクターカレッジ『らくらく解ける総合旅行業務取扱管理者必勝問題集』オーム社。その他、必要に応じて講義時に紹介する。
成績評価の方法	<p>【小テスト(30%)、定期試験(70%)】以上の項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料-その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に何回か小テストを行います。 ・レポート課題は授業内で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30~16:30 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	<p>平成28(2016)年度以降に入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27(2015)年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生への メッセージ	<p>実際に旅行する場合に、募集型企画旅行がどのように旅行パンフレットに掲載され、申し込みや契約がどのようになされ、旅行添乗員の動きなどをチェックしてみましょう。</p> <p>また、国内旅行業務取扱管理者の資格を取得し、さらに総合旅行業務取扱管理者の資格を取得して、キャリアアップを図りましょう！</p>

科目名	アジアの観光事情	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			国際観光学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Sightseeing circumstances of Asia.	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	よこた けいざぶろう	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	横田 恵三郎	修得単位	2単位
授業のテーマ	アジア諸国を“観光資源”を切り口に各国・地域の歴史、文化、民族、社会等の知識を得ることが出来る。		
到達目標	各国・地域各々の特長を説明することが出来るようになる。		
授業概要	本講義では、各国の地勢をまず把握したうえで当該国・地域に係わる一般基礎データを確認し、押さえておくべき代表的な観光資源について画像・映像をも活用しながら紹介していく。アジア各国は夫々特長ある歴史、文化、社会、宗教を有しており、各々の特長を具体的な事例を交えながらアジアの多様性を学んでいく。相互理解が深まるよう台湾、韓国からの留学生に発表の機会を設けることを考えている。		
授業計画			
第1回	ガイダンス アジアとは 地勢の概要(位置、国名、首都等)		
第2回	マレーシアの観光事情		
第3回	シンガポールの観光事情		
第4回	インドネシアの観光事情		
第5回	タイの観光事情		
第6回	ベトナムの観光事情		
第7回	カンボジアの観光事情		
第8回	フィリピンの観光事情		
第9回	香港・マカオの観光事情		
第10回	インドの観光事情		
第11回	ネパール・ブータンの観光事情		
第12回	台湾の観光事情(留学生による発表と講義)		
第13回	韓国の観光事情(留学生による発表と講義)		
第14回	中国の観光事情		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	復習した上で自分なりに更にその国・地域の特長を掘り下げること(1.5時間程度)		
履修条件 受講のルール	アジアに興味があり理解を深めたいという意思を持っていること、また将来、観光系企業に進みたいと思っている学生は履修が望ましい。特に1年生の履修を薦めます。		
テキスト	毎回授業に関連するプリントを配付します。		
参考文献・資料	授業中に紹介します。		
成績評価の方法	定期試験・小テスト50%、取組姿勢・授業態度50%とし総合的に評価します。		
オフィスアワー	水曜日：9:00-11:30、木曜日：9:00-11:30		
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。		
学生へのメッセージ	現在、訪日外国人旅行客のなんと約80%がアジアからの人々です。皆さんが卒業後どのような業界に進んでもアジアの国々(人々)との関係は今後益々深まっていきます。将来に備えてアジア各国・地域の基本的事項を知識として保有しておくことが大事です。日頃から興味を持ってテレビや雑誌、Web等各種メディアを通じてそれら知識の吸収を積み重ね、視野の広い人間に成長しましょう。		